

藍涼祭食器リユース活動2008 活動報告書

平成20年11月14日

エコ・プロジェクト

1. 参加団体について

今回も、自主的な参加意識を持ってもらうことを考え、任意参加という立場をとったため、全ての団体の参加にはならなかった。義務化するには受け入れ体制がまだまだ未熟であり、また義務化することによる参加者の自主性の低下も懸念される。まずはボランティアというスタンスを崩さず、運営側の熱意とよりよい受け入れ体制の実現によって参加団体の理解を得ることが必要である。

2. 活動準備について

事前準備はほぼ3人で行っていたため、満足のいく準備ができず、当日の穴も目立った。それでも活動として成立することができたのは、運営委員会、ならびに学生課の皆さん、ボランティアの方々の協力があったからである。心から感謝の意を表したい。来年度はもっと多くのスタッフで運営されることを心から願っている。

アラエール号は本活動の生命線であることは間違いないため、事前予約を徹底しなければならない。また今回、故障によって幾度と無く洗浄の中断を余儀なくされたことから、アラエール号故障時の対処についても事前に考えておく必要があると痛感した。

今回の準備活動の最も大きな反省点に、PR不足がある。パンフレットに広告スペースをいただいたが、やはり看板等によるPRが充実しないと不十分であった。

3. 当日を通して

当日にはボランティアが加わったものの、平均して3-5名(常時いたのは2名)で洗浄、貸し出し、回収等を行うなど、人数的にかなり厳しいものになった。

今回は比較的多くの団体に参加していただけたが、参加団体の中でも使い捨て容器を使用するケースが相変わらず目立った。意識の低さといえばそれまでだが、まずは受け入れ体制の充実で解決していく余地が十分にあるように思える。そうすると、原因は食器不足であると考えられる。運営側としても、手続きを簡単にするため、貸し出しする食器の種類や数を絞る傾向にあったため、出店団体は食器不足の状態(もしくはそういう意識)にあり、それが使い捨て容器の使用につながっていたようである。さらに、利便性やお客への対応を理由に使い捨て容器を用いるケースも非常に多く、参加団体および来場者への事前のPR・啓発も含めて改善を行う必要があるとそうである。

最終日には、片付け時に4名しかいなかったこともあり、食器の洗浄、アラエール号の片付け、ごみの回収・処理に相当な時間がかかり、撤収は23時30分と、規定時間を大幅にオーバーしてしまった。これにより、多大なご迷惑をおかけする結果となったのは、当初の見込みが甘かったからであり、大いに反省している。ごみの管理はリユース活動においても重要な要素ではあるが、大学祭運営者としても責任をもって取り組むべき大きな問題としてとらえてほしい。

4. 活動費用について

品名等	'06	'07	'08	備考
アラエール号関連費	基本料金		1,000	1,000 熱消毒料等(定額)
	プロパンガス代	6,070	2,070	6,300 8026 L(消費量) ÷ 1000 × 785 円/m ³ (10円未満切り捨て)
	車両燃料代		1,340	980 31 km(消費量) ÷ 3km/L × 95 円/L (10円未満切り捨て)
	リユース食器補償代	10,180	10,575	8,260 大皿 880 円 × 3 枚、中皿 690 円 × 7 枚、スプーン 90 円 × 1 本
小計	16,250	14,985	16,540	
その他経費	81,733	39,968	0	レントオールは除く。
合計	97,983	54,953	16,540	

来年度の参考のために、ここ3年間の活動費用を示した。年々用具がそろってきているため、アラエール号以外の経費はかからなかった。特に、食器洗浄用シンクや給排水設備に関しては、今後長く続けていくためのベースが完成した。

食器の紛失数自体は昨年までに比べて少なかったが、紛失料の値上がり（これは予想外）により今年もかなりの額になってしまった。本来なら、食器保証金というものを事前に参加団体から集めるべきだったが、今回は、事後となったことで同意を得にくいと考え、寄付（1団体550円）という形をとった。快くとはいえないまでも、3団体から寄付を頂戴した。団体の方としても、容器の購入代が浮くというメリットがあることから、事前に周知・徹底することで十分に理解が得られる可能性が高い。

5. 食器回収率

食器の種類（借り入れ先）	借り入れ数（個）	紛失数（個）	破損数（個）	回収数（個）	回収率（%）
大皿（リサイクルプラザ）	200	0	0	200	100
中皿（リサイクルプラザ）	200	7	0	193	96.5
どんぶり（リサイクルプラザ）	200	0	0	200	100
リユースカップ（リサイクルプラザ）	200	0	0	200	100
マグカップ（リサイクルプラザ）	200	2	0	198	99.0
箸（リサイクルプラザ）	400	48	0	352	88.0
スプーン（リサイクルプラザ）	200	1	0	199	99.5
ご飯茶碗（大学生協）	50	0	0	50	100
平皿（大学生協）	100	3	0	97	97.0
小スプーン（大学生協）	10	0	0	10	100
フォーク（大学生協）	20	0	0	20	100
合計	1780	61	0	1719	96.6

食器回収率は96.6%（昨年が約90%、一昨年在約97%）となっており、なくなりやすいということで紛失負担金の発生しない「箸」を除けば、回収率は99%を超えることから、まずまずの結果だと言える。

6. アンケート結果

今回の活動の評価を行うため、アンケートを実施した。以下は、藍涼祭参加団体の責任者35名に対しておこなったアンケートの一部である。率直な感想を知るために、無記名とした。得られた数は決して多くはないが、ある程度参考にはなると思われる。なお、引き続き一般学生からも回答を受け付けている。

全体として、私たちの予想をはるかにこえて、好意的な回答が多かった。準備不足もあり、評価はかなり低いものとなることを覚悟していたので、まずは一安心した。やはり、出店団体にもメリットがあることが大きいかもしれない。ただ、課題も多々あるので、これを参考にしっかりと分析をしていきたい。

回答者の学年

1年 **31.4%** 2年 **40.0%** 3年 17.1% 4年 8.6% 無回答 2.9%

I 本活動の環境問題に対する意識の啓発効果について

- 1 リユース活動に参加した学生（出店者・リユース運営者）にのみ効果があった・・・**48.6%**
- 2 リユース活動に参加しなかった学生（出店者・客）にのみ効果があった・・・0%
- 3 当日来場した一般客にのみ効果があった・・・2.9%
- 4 藍涼祭に参加した全ての学生に効果があった・・・2.9%
- 5 リユース活動に参加した学生と当日来場した一般客に効果があった・・・5.7%
- 6 リユース活動に参加しなかった学生と当日来場した一般客に効果があった・・・0%
- 7 藍涼祭に参加した全ての学生・一般客に効果があった・・・**40.0%**
- 8 無回答・・・0%

II 本活動全体について①

- a 環境活動の意義・啓発 (①非常に良い **51.4%** ②やや良い **42.9%** ③やや悪い 5.7% ④悪い 0% ⑤無回答 0%)
b 食器の貸出・返却方法 (①非常に良い **45.7%** ②やや良い **48.6%** ③やや悪い 5.7% ④悪い 0% ⑤無回答 0%)
c ごみの管理 (①非常に良い **28.6%** ②やや良い **60.0%** ③やや悪い 11.4% ④悪い 0% ⑤無回答 0%)
d スタッフの対応 (①非常に良い **62.9%** ②やや良い **31.4%** ③やや悪い 2.9% ④悪い 0% ⑤無回答 0%)
e 活動の周知・徹底 (①非常に良い **20.0%** ②やや良い **60.0%** ③やや悪い **20.0%** ④悪い 0% ⑤無回答 0%)

III 本活動全体について②

- a 環境にやさしい活動
(①当てはまる **80.0%** ②やや当てはまる **20.0%** ③あまり当てはまらない 0% ④当てはまらない 0% ⑤無回答 0%)
b 食器の数は充分
(①当てはまる **42.9%** ②やや当てはまる **40.0%** ③あまり当てはまらない 14.3% ④当てはまらない 0% ⑤無回答 2.9%)
c 食器の種類は充分
(①当てはまる **40.0%** ②やや当てはまる **28.6%** ③あまり当てはまらない 17.1% ④当てはまらない 11.4% ⑤無回答 2.9%)
d 出店団体の負担が大きい
(①当てはまる 2.9% ②やや当てはまる **31.4%** ③あまり当てはまらない **37.1%** ④当てはまらない 25.7% ⑤無回答 2.9%)
e 客の負担が大きい
(①当てはまる 2.9% ②やや当てはまる **34.3%** ③あまり当てはまらない 25.7% ④当てはまらない **37.1%** ⑤無回答 0%)
f 食器の使用によりサービスが低下
(①当てはまる 2.9% ②やや当てはまる **22.9%** ③あまり当てはまらない 20.0% ④当てはまらない **54.3%** ⑤無回答 0%)
g 活動に対して好印象
(①当てはまる **65.7%** ②やや当てはまる **31.4%** ③あまり当てはまらない 2.9% ④当てはまらない 0% ⑤無回答 0%)
h 毎年続けられるべき活動
(①当てはまる **77.1%** ②やや当てはまる **20.0%** ③あまり当てはまらない 2.9% ④当てはまらない 0% ⑤無回答 0%)

IV 藍涼祭リユース活動に参加したいか(出店者でないとしたら)

- a リユース活動の運営側として参加したい・14.3%
b 当日のボランティアとして参加したい・**28.6%**
c 参加したくない・**2.9%**
d わからない・**48.6%**
e 無回答・**5.7%**

V 来年以降、運営委員主催となり、当日の活動を出店団体で行うことになったら(自由記述。以下、全回答)

好意的な回答

- ・賛成×7
- ・賛成です。洗浄は当日手が回らないなどの問題はありますが、ゴミの回収などできる限り手伝っていくべきだと思います。
- ・賛成。この一連の活動により、少なくとも出店団体だけでも環境に対する意識が高くなると思います。
- ・花火の後かたづけや、受付のように、時間制で各団体に協力を呼びかけてもよいと思う。
- ・大変だと思うが良い。
- ・あまり負担にならないように分担したらよい。
- ・賛成。良いことだと思うので、手伝えることがあるなら一緒にやりたい。
- ・事前に言ってもらえれば大丈夫だと思います。
- ・大賛成です。ゴミの減少にかなりつながるので。今年も十分よかったですと思います。

否定的な回答

- ・やはり使わない団体は手伝えないと思います。
- ・負担が大きすぎですね。
- ・人数の多い少ないでいろいろ問題が出てくると思う。
- ・人数が少ない団体は人手を取られたくないので、つい使い捨て容器に走るのが現状です。
- ・私たちがやるとするとあまりやりたくない。
- ・賛成。しかし、組織的に活動できないと思う。運委の人数不足と他のサークルへの強制力のなさを考えると、主催できないのでは？

- ・手伝うとなれば、団体で活動に参加できなくなるので、お皿など自分で用意しそう。ゴミがふえそうです。
- ・活動していた人が4人と少ない人数で動かしていたため、ボランティアに人をさけないかもしれないです。回収場所の案内がもっとたくさん目立つようにあつたほうがいい。
- ・出店団体からボランティアを出す場合、人手が不足するのが厳しいので参加しないかもしれないです。
- ・運委との引き継ぎは上手くいくのでしょうか。
- ・反対です。リユース食器は使用したいですが、当日の活動に人数をまわす余裕はありません。
- ・団体で人手が足りなくなったりするので洗浄は厳しいと思う。

VI 活動全体（準備段階から事後までを含め）を通しての意見や感想、批判（自由記述。以下、全回答）

- ・食器の貸し出しが間に合わなかった
- ・お疲れ様でした×3
- ・ゴミ捨て場が汚いと思いました。
- ・すばらしいです！エコは大切に！！
- ・おつかれさまです。こちらとしても動きやすかったです。
- ・食器の貸し出し、洗浄等で大変お世話になりました。とても良い活動だと思いますので、もっとPRしても良いのでは？
- ・今回はリユースに参加しませんでした。来年は参加したいと思います。
- ・食器が紛失してしまったのでそれが残念です。次は紛失がないような管理体制が欲しいです。
- ・よかったです。
- ・寒い中、お疲れさまでした。
- ・すばらしい。
- ・洗うの大変なのに、お疲れさまでした。とても良い企画だと思います。ただ、事前に返却日時、返却場所など、返却の徹底をすべきだと思いました。お金が発生してしまうことをみんなにも言うべきではないでしょうか。
- ・楽しい学祭でした。
- ・当日、使用してとても使いやすく、皿等もきれいになっていてありがたかったです。ただ、皿が洗いたてでホカホカだったので、冷たい物を売る人には少しつらかったかもですね。
- ・おつかれさまでした！！本当よかったです。
- ・おつかれさまでした！！本当にありがとうございます。
- ・寒いなか、皿洗い等をしてくださってありがとうございました。食器たくさん使わせていただきました。
- ・時代に沿ったよい活動だと思います。
- ・人手が少ない中、本当にお疲れ様でした！いつかは大学の先生や職員の方も参加するものになれば良いと思います。
- ・良い活動だと思います。助かりました。
- ・リユース本部にいた人が大変そうでした。藍涼祭実行委員さん相当大変だったと思います。田中さんおつかれ☆
- ・当日はたくさんの食器の洗浄・回収・ゴミの回収等、エコプロさんには大変にお世話になりました。とても円滑に活動して下さり、特に何も言うことはありません。来年もよろしく願います。
- ・毎年やれば良いと思います。楽しかったです。

7. 最後に

この活動もこれで3年続いたことになるが、毎年次があるかわからないという不安定な状態の中、なんとかつないでいこうということで行ってきた。不安定になる原因としては、担当者が毎年変わることで、サークルが行っていることが大きい。建前上は、たこやきを販売している団体もリユース活動を行う団体も同じ出店団体という扱だが、実際にはその影響力の違いから、そうは見られていないなど、立場が明確ではないことでやりにくい面も多い。他大学の例を見ても、環境系のサークルが主体となりリユース食器の取り組みが行われた例は数多くある。しかしながら、大学祭主催者本体の意識が低く、環境系サークルの負担が増し、活動として継続しなかったケースが目立つ。

事前準備3名、当日も5人くらい集まればとりあえず形にはなるということが今回わかった。また、アラエル号を使用したイベントは、毎年いろいろなところで新たに開催され、初めての人にもできるものである。人数不足は確かにあるかもしれないが、以上のことから、必要なのはやる気である。良い活動であり、今後も続けたいというムードが運営委員内でも高まれば、長期的な視点から、来年以降はぜひ主催してほしい。運営委員会主催となれば、団体にも手伝いを促す（受付やごみひろいと同じように扱う）ことが可能となり、ボランティアを広く募集する力もある。看板や返却コーナーなどにも長期的な視点から予算をつぎ込めるため、より質の高いものにすることができるのではないだろうか。実際の活動は出店団体とボランティアにやってもらえれば良いわけである。

最後に改めて、今回の活動を支えて下さった、運営委員会の皆様、学生課の皆様、学生委員会の先生方、大学生協の皆様へ感謝の意を表します。